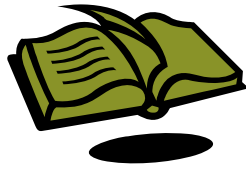




過去問の重要性

過去の入試において出題された問題と解答解説を載せた問題集を通称過去問と呼んでいます。高3生は夏期講習からすでに過去問を開始。高3生も遅くとも9月からは必ず始めなければなりません。入試で合格を勝ち取るためには、この過去問の研究は必要不可欠なものです。認識が十分でない受験生も目につきます。

過去問を解く第一の目的は出題の形式と傾向をつかむことです。出題が記述式なのか選択式なのかによっても勉強のやり方は違ってきます。それぞれの対応できるような訓練をやっておかなければ合格点は望めません。例えば、



大学受験の数学においては、センター試験のような誘導型のマーク式、私大で見られるマーク式、それと記述式の三つの場合が考えられます。時間制限のある入試では、これらへの対応は当然変わってきます。数学的な言葉を用いるならば、マーク式の出題に対しては、必要条件で突っ走ればよいのです。一般的な証明など一切必要ありません。図形問題ならば、特殊図形で処理すれば簡単に解ける問題も数多くあります。

これなどは、出題形式の違いによる極端な例ですが、出題形式と傾向を知らずに受験するなどというのは論外です。

第二の目的は、過去問を解くことによって現在の自分の学力と合格ラインとの差を確かめ、残り期間でその差をつめていく作業を集中的にやることです。自分の受験校の出題に合わせて弱点・盲点を確実に補強していくのです。したがって、ただ漠然と過去問を解くだけでは意味がありません。知らなかった知識を身につけ、解けなかった問題の解法を習得していくことが必要です。過去問で弱点・盲点が発見されたならば、これまで自分が解いてきた問題集等での部分は集中的に復習をやるべきです。ここまでの作業をして初めて過去問を解く価値が生まれてきます。つまり、解いたあとの作業に時間をかけなければならぬということです。受験において過去問に勝る参考書はないということ、肝に銘じましょう。(村上)

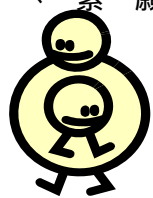
受験生よ！ 今こそやれ！

早いもので、8月になってしまった。夏休みの残りもあと20日余り。「夏こそ頑張ろう」と思っていたきみ達の決意は色褪せていないか？不快な気持ちで毎日を送っていないか？

人間とは不思議なもので、その存在の根底を

なす心とか精神とか呼ばれているものの在り方は、矛盾に満ちている。つまり、心とか精神とかいつもものの中に、異質(時には同質ともなる)なものも共存しているのである。何が心で、何が精神でと定義するのは難しいが、とりあえず「心」という言葉を使って、受験生のことを考えてみる。

暑い日が続き、やるべきことも進まず、誘惑も多い。そこで、誘惑にのり、友人と楽しい時を過ごす。或いは、惰眠をむさぼる。或いは、高校野球に釘づけになる。きみが、自分の「心」に従って行動したのであれば、その結果、幸福感を味わうだろう。しかし、その時間が終わった後、きみは間違いなく不快感を味わうはずだ。自己嫌悪に襲われるはずだ。実際、今まで何度も何度も経験してきただろう。では、何故こんなことになるのか？



「心の中」には「気分」と「願望」と「理性」など色々な要素があって、またそれぞれ強弱、濃淡、深浅など様々な変化をす

る。さて、愚かな受験生は「かつたるい」という一時的な「気分」に従って行動する。その時自分の「願望」「志望校に合格したい。成績を伸ばしたい。」を裏切ることになる。「理性」が弱いから、その結果どうなるか想像することができない。しかし、一時の宴が終わると、弱い理性も働き出して、きみが願望を裏切ったことを教える。きみは気付いていないが人間にとって

大事なのは、「一時的な気分」より「願望」のほうなのだ。だから、当然自己嫌悪になるといつ図式だ。そこで、きみ達に言いたい。願望を大事にして！誘惑がおきたら、自分の願望を思い出せ！このままいったらどうなるかを想像しろ！そして、そして、知恵を使っただ。誘惑の部分を、願望に従って行動した自分への「ほっぴ」として、満たしてやるのだ。その日の課題を終えたら自由時間。一週間、目一杯勉強したら、次の日はフリーという具合に。「気分」と「願望」のバランスをとって生きる。これこそ、今求められていることだ。

ある生徒が言った。「夏は12時間位やっています。みんな10時間位やっているよつなので、それでは差がつかないと思い12時間を目安にしています。」その言やよ。そして彼は、「気分」も「やれる自分が嬉しい」という方向に変わっていて、願望と気分が一致した状態になっている。いい表情をしている。「気分」は変わるものだぞ！また、別の生徒が言った。彼女は講習から来ている生徒だ。「10時間の勉強してやるものなんですね。」気負わず、淡々としたその物言いは、さすががしい。彼や彼女が、将来どういう人生を歩むかは分からない。しかし、自分の願望を大切に、一生懸命取り組むことは素晴らしいことで、今後の人生に大きなプラスになることは間違いない。夏休みもあと半分と少し。きみも、まだ出会っていない自分と会い！(小林健)

勉強に集中できない

なぜの解決策

創学舎でもう20年以上も教えている。これまで教えてきた生徒は何千人にもなるだろう。その経験からいつの다가、今まで、「やる気のない生徒」は、まず一人もいなかった。それぞれに「やる気」は持っていると思っている。ただ、「やる気」の強さの差が、生徒の学習状況を大きく左右しているのだ。勿論、これまでの学習量、家庭環境、現時点での能力など、いろんな要素も影響することは間違いがないが、「ここでは「やる気」について更に検討する。

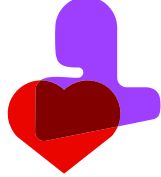
「やる気」は、必ずしもそのままなのか？
「やる気」の差は、ずっと埋まらないのか？否である。「やる気」は育つのである。少し勇気を出して、少し工夫をしていけば、少しずつだが強くなっていくのである。そう、きみの「やる気」も、もっと強くなるのだ。

では、どうすればいいのか？それは、毎回毎回の勉強を成功させることである。今日一日を、上手く過ごさせるようにすることである。その積み重ねが、「やる気」も、もっと強くなる。毎日、毎日の勉強を、成功させるにはどうすればいいのか？これもまた、いろいろポイントがあるが、今回は、一つだけに絞って、集中力を高める話をしよう。

生徒と話をするとき、「やる気」について集中できない。「という悩みをよく聞く。学校であったイヤなこと、友人とのめめ事、親との口ゲンカなど、不愉快なことが頭の中を支配している。そうでなくとも勉強を、一時間でもすれば疲れて飽きてくる。そんな状態のまま、机に向かっているのもダメ。といって、テレビをみたり、音楽を聞いたりすれば、もう勉強にはもどれない。そして、一日が終わるとき、後悔をする。こんなところだ。

実は、いくつか、とっておきの方法がある。集中できないと思ったら、即やめて、5分間体を動かすことである。長すぎてはいけない。具体的には、まず有効なのが「5分間手伝い」。前もって親に頼んでおくのである。「勉強できないとき、5分間だけ手伝いをさせてね」実は、これには、父母の協力が欠かせないので、この項をお読みの方は、是非配慮していただければ幸いである。次に「シャワー」。冷水と温水を交互に浴びると、もやもやもぶつとぶ。そして、三つ目、「5分間散歩」。家の周りを歩くだけでもよい。

以上、三つ紹介したが、これは人間の「心と身体」の理屈に、うまく合っているのだ。例

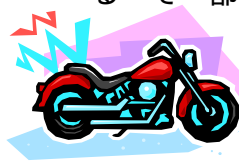


例えば、転んで足を負傷したとする。その前まで、頭の中でよくよく考えていたことがあっても、「痛い」という感じだけで全身が埋まってしまふ。その瞬間、「よくよく」は消えている。つま

り、体への刺激は、一時的な気分完全に勝るのだ。いいかい。集中できないときは、5分間だけで体に刺激を与える。勿論、実行するしないは、きみ次第である。(小林(健))

一体感

私は以前の原稿でバイクで中部日本一周をしたことを書いた。そのときの経験で印象に残っていることの一つに『挨拶』がある。



バイクは「存知のとおり両手両足を使うので、走行中は基本的に何もできない。ヘルメットをかぶっているため、表情もわからない。それでも走行中に他のバイクとすれ違う時には挨拶をする。バイク乗りの挨拶は『手を上げる』ことである。ロングツーリングになると一日に何度も挨拶をすることになる。ではなぜ全く知らないはずの人に挨拶をするのだろうか。それは多分『一体感』だと思う。バイクが好きで乗ることを楽しんでいる。ただ単にそれだけで、知らない人ではなく仲間だと思えるのだ。この感覚は自動車では味わったことがないので、バイク特有のものだろう。

ところでこの一体感は、塾の教室内でも様々な効果をもたらす。進学塾としてのイメージはどちらかというと志望校に合格するために黙々と勉強する場所というものだろう。もちろん黙々と勉強もする。しかし同じ黙々と勉強をす

るのであっても、生徒一人一人がその教室、コースの中に確かに存在しているという状況があるのとないつでは受験までの長い道のりにおいて大きな違いが出てくる。「数学では、君はすごいな」、「英語では、xさんがすごい」、「僕も(私も)負けておれない」というようなものから、君は宿題も見事にやってくるし、副教材もすごく進んでいる」といったものまである。聞いていると時として嫌味に聞こえかねないこれらのことが、コースの皆がいい意味で認知してプラスのライバル関係が出来上がる。このようになるとコースは見違えるように良くなってくる。そしてこのようなコースになるのは上位コースとは限らない。中位から下位コースでも当然出てくる。その結果として所属コースのレベルよりもはるかに上位の高校へ合格していく生徒が出るのである。表現として正しくないかもしれないが、これがコースの『一体感』だと思つ。

今までそのようなコースを何度も経験することができた。その都度生徒たちに助けられた、恵まれたと思つ。そしてまた、これからもそのような生徒たちの役に立ちたいと思つ。今は夏期講習の真っ最中である。中3はそのようなコースへ変貌するきつかけとなる。また来春にはみんなの笑顔が見たい。(岡本)

▲継続希望の方へ▲

- ▶卒業や転校等で創学舎を離れた方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。
- ▶在籍していた教室までご連絡下さい。